

Revision : 15.01.18

Release : Jul. 2020, ヤマハ株式会社

NVR510 Rev.15.01.18 リリースノート

○ファームウェアのリビジョンアップを行う前に必ずお読みください

Rev.15.01.10以降のファームウェアへリビジョンアップを行う際には以下の点にご注意
ください。

Rev.15.01.10では以下の変更をしています。

「NVR510 Rev.15.01.10 リリースノート」より、

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/relnote/Rev.15.01/relnote_15_01_10.txt

[1] 本機にアクセスするときのセキュリティーを強化した。

(8) 工場出荷状態の設定にtelnetd host lanコマンドを追加した。

Rev.15.01.10以降のファームウェアを使用して工場出荷状態からプロバイダーを設定すると、
上記のコマンドが設定されているため遠隔からTELNETでログインができなくなります。
遠隔からTELNETでログインをする場合はtelnetd hostコマンドの設定を変更してください。

ONVR510 Rev.15.01.15 からの変更点

(メーカーリリース版 Rev.15.01.16 を含む)

■脆弱性対応

[1] OpenSSLの以下の脆弱性対応を行った。

- CVE-2019-1547(JPCERT/CC JNVU#94367039)
- CVE-2019-1563(JPCERT/CC JNVU#94367039)

■機能追加

[1] L2MSで、以下の機器に対応した。

- SWX3100-18GT
- SWX2310-10G
- SWX2310-18GT
- SWX2310-28GT
- SWX2310-52GT
- SWX2210P-10G
- SWX2210P-18G
- SWX2210P-28G

[2] OCN/バーチャルコネクトサービスの固定IP8契約と固定IP16契約に対応した。

[3] DNSリカーシブサーバー機能でEDNS0に対応した。

また、Web GUIの詳細設定の[DNSサーバー]でEDNSを設定できるようにした。

これに伴い、以下のコマンドにednsオプションを追加した。

ODNSサーバーのIPアドレスの設定

[書式]

dns server IP_ADDRESS [edns=SW] [IP_ADDRESS [edns=SW]...] ★

no dns server [IP_ADDRESS [edns=SW]...] ★

[設定値及び初期値]

IP_ADDRESS

[設定値] : DNSサーバーのIPアドレス

[初期値] :-

SW ★

[設定値] : ★

on : 対象のDNSサーバーへの通信はEDNSで行う ★

off: 対象のDNSサーバーへの通信DNSで行う ★

[初期値] : off ★

[説明]

DNSサーバーのIPアドレス、またはネットボランチサーバー番号を最大4つ指定できる。

このIPアドレスはルーターがDHCPサーバーとして機能する場合にDHCPクライアントに通知するためや、IPCPのMS拡張オプションで相手に通知するためにも使用される。

他のコマンドでもDNSサーバーが設定されている場合は、最も優先順位の高いコマンドの設定が使用される。DNSサーバーを設定する各種コマンドの優先順位は、コマンドリファレンスの「DNSの設定」ページの冒頭の説明を参照。

ednsオプションを省略、またはedns=offを指定すると、対象のDNSサーバーへの名前解決はDNSで通信を行う。 ★

edns=onを指定すると、対象のDNSサーバーへの名前解決はEDNSで通信を行う。 ★

edns=onで名前解決ができない場合、edns=offに変更すると名前解決できることがある。 ★

EDNSはバージョン0に対応。 ★

ODNSサーバーアドレスを取得するインターフェースの設定

[書式]

dns server dhcp INTERFACE [edns=SW] ★

no dns server dhcp [INTERFACE [edns=SW]] ★

[設定値及び初期値]

INTERFACE

[設定値] : LANインターフェース名、WANインターフェース名、ブリッジ
インターフェース名

[初期値] :-

SW ★

[設定値] : ★

on : 対象のDNSサーバーへの通信はEDNSで行う ★

off : 対象のDNSサーバーへの通信はDNSで行う ★

[初期値] : off ★

[説明]

DNSサーバーアドレスを取得するインターフェースを設定する。このコマンドでインターフェース名が設定されていると、DNSで名前解決を行うときに、指定したインターフェースでDHCPサーバーから取得したDNSサーバーアドレスに対して問い合わせを行う。DHCPサーバーからDNSサーバーアドレスを取得できなかった場合は名前解決を行わない。他のコマンドでもDNSサーバーが設定されている場合は、最も優先順位の高いコマンドの設定が使用される。DNSサーバーを設定する各種コマンドの優先順位は、コマンドリファレンスの「DNSの設定」ページの冒頭の説明を参照。

ednsオプションを省略、またはedns=offを指定すると、対象のDNSサーバーへの名前解決はDNSで通信を行う。 ★

edns=onを指定すると、対象のDNSサーバーへの名前解決はEDNSで通信を行う。 ★

edns=onで名前解決ができない場合、edns=offに変更すると名前解決できることがある。 ★

DNSはバージョン0に対応。 ★

ODNSサーバーを通知してもらう相手先情報番号の設定

[書式]

dns server pp PEER_NUM [edns=SW] ★

no dns server pp [PEER_NUM [edns=SW]] ★

[設定値及び初期値]

PEER_NUM

[設定値] : DNSサーバーを通知してもらう相手先情報番号

[初期値] : -

SW ★

[設定値] : ★

on : 対象のDNSサーバーへの通信はEDNSで行う ★

off: 対象のDNSサーバーへの通信はDNSで行う ★

[初期値] : off ★

[説明]

DNSサーバーを通知してもらう相手先情報番号を設定する。このコマンドで相手先情報番号が設定されていると、DNSでの名前解決を行う場合に、まずこの相手先に発信して、そこでPPPのIPCP MS拡張機能で通知されたDNSサーバーに対して問い合わせを行う。

相手先に接続できなかつたり、接続できてもDNSサーバーの通知がなかった場合には名前解決は行われない。

他のコマンドでもDNSサーバーが設定されている場合は、最も優先順位の高いコマンドの設定が使用される。DNSサーバーを設定する各種コマンドの優先順位は、コマンドリファレンスの「DNSの設定」ページの冒頭の説明を参照。

ednsオプションを省略、またはedns=offを指定すると、対象のDNSサーバーへの名前解決はDNSで通信を行う。 ★

edns=onを指定すると、対象のDNSサーバーへの名前解決はEDNSで通信を行う。 ★

edns=onで名前解決ができない場合、edns=offに変更すると名前解決できること

がある。 ★

EDNSはバージョン0に対応。 ★

ODNS問い合わせの内容に応じたDNSサーバーの選択

[書式]

```
dns server select ID SERVER [edns=SW] [SERVER2 [edns=SW]] [TYPE] QUERY [ORIGINAL-SENDER]
```

[restrict pp CONNECTION-PP] ★

```
dns server select ID pp PEER_NUM [edns=SW] [DEFAULT-SERVER [edns=SW]] [TYPE] QUERY
```

[ORIGINAL-SENDER] [restrict pp CONNECTION-PP] ★

```
dns server select ID dhcp INTERFACE [edns=SW] [DEFAULT-SERVER [edns=SW]] [TYPE] QUERY
```

[ORIGINAL-SENDER] [restrict pp CONNECTION-PP] ★

```
dns server select ID reject [TYPE] QUERY [ORIGINAL-SENDER]
```

```
no dns server select ID
```

[設定値及び初期値]

ID

[設定値] : DNSサーバー選択テーブルの番号

[初期値] :-

SERVER

[設定値] : プライマリーDNSサーバーのIPアドレス

[初期値] :-

SERVER2

[設定値] : セカンダリーDNSサーバーのIPアドレス

[初期値] :-

TYPE : DNSレコードタイプ

[設定値] :

a : ホストのIPアドレス

aaaa : ホストのIPv6アドレス

ptr : IPアドレスの逆引き用のポインタ

mx : メールサーバー

ns : ネームサーバー

cname: 別名

any : すべてのタイプにマッチする

省略: 省略時はa

[初期値] :-

QUERY : DNS問い合わせの内容

[設定値] :

TYPEがa、aaaa、mx、ns、cnameの場合

QUERYはドメイン名を表す文字列であり、後方一致とする。例えば
"yamaha.co.jp"であれば、rtpro.yamaha.co.jpなどにマッチする。
"."を指定するとすべてのドメイン名にマッチする。

TYPEがptrの場合

QUERYはIPアドレス(ip_address[/masklen])であり、masklenを省略
したときはIPアドレスにのみマッチし、masklenを指定したときは
ネットワークアドレスに含まれるすべてのIPアドレスにマッチする。
DNS問い合わせに含まれるin-addr.arpaドメインで記述されたFQDN
は、IPアドレスへ変換された後に比較される。すべてのIPアドレスに
マッチする設定はできない。

rejectキーワードを指定した場合

QUERYは完全一致とし、前方一致、及び後方一致には"*"を用いる。
つまり、前方一致では、"NetVolante.*"であれば、NetVolante.jp、
NetVolante.rtpro.yamaha.co.jpなどにマッチする。また、後方一致
では、"*yamaha.co.jp"と記述する。

[初期値] :-

ORIGINAL-SENDER

[設定値] : DNS問い合わせの送信元のIPアドレスの範囲

[初期値] :-

CONNECTION-PP

[設定値] : DNSサーバーを選択する場合、接続状態を確認する接続相手先

情報番号

[初期値] :-

PEER_NUM

[設定値] : IPCPにより接続相手から通知されるDNSサーバーを使う場合の
接続相手先情報番号

[初期値] :-

INTERFACE

[設定値] : DHCPサーバーより取得するDNSサーバーを使う場合のLANインター
フェース名またはWANインターフェース名またはブリッジインター
フェース名

[初期値] :-

DEFAULT-SERVER

[設定値] : PEER_NUMパラメーターで指定した接続相手からDNSサーバーを
獲得できなかったときに使うDNSサーバーのIPアドレス

[初期値] :-

SW ★

[設定値] : ★

on : 対象のDNSサーバーへの通信はEDNSで行う ★

off: 対象のDNSサーバーへの通信はDNSで行う ★

[初期値] : off ★

[説明]

DNS問い合わせの解決を依頼するDNSサーバーとして、DNS問い合わせの内容およびDNS問い合わせの送信元および回線の接続状態を確認する接続相手先情報番号とDNSサーバーとの組合せを複数登録しておき、DNS問い合わせに応じてその組合せから適切なDNSサーバーを選択できるようにする。テーブルは小さい番号から検索され、DNS問い合わせの内容にQUERYがマッチしたら、そのDNSサーバーを用いてDNS問い合わせを解決しようとする。一度マッチしたら、それ以降のテーブルは検索しない。すべてのテーブルを検索してマッチするものがない場合には、他のコマンドで指定されたDNSサーバーを用いる。DNSサーバーを設定する各種コマンドの優先順位は、

コマンドリファレンスの「DNSの設定」ページの冒頭の説明を参照。

rejectキーワードを使用した書式の場合、QUERYがマッチしたら、そのDNS問い合わせパケットを破棄し、DNS問い合わせを解決しない。

restrict pp節が指定されていると、CONNECTION-PPで指定した相手先がアップしているかどうかをサーバーの選択条件に追加される。相手先がアップしていないとサーバーは選択されない。相手先がアップしていて、かつ、他の条件もマッチしている場合に指定したサーバーが選択される。

ednsオプションを省略、またはedns=offを指定すると、対象のDNSサーバーへの名前解決はDNSで通信を行う。 ★

edns=onを指定すると、対象のDNSサーバーへの名前解決はEDNSで通信を行う。 ★

edns=onで名前解決ができない場合、edns=offに変更すると名前解決できることがある。 ★

EDNSはバージョン0に対応。 ★

[4] SSHサーバー機能、SFTPサーバー機能で、公開鍵認証に対応した。

TELNET複数セッション機能、SSHサーバー機能

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/sshd/index.html>

SFTPサーバー機能

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/sftpd/>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[5] RIPv2において、RIP広告動作を変更できるようにした。

○RIPv2での広告動作モードの設定

[書式]

rip advertise mode MODE

no rip advertise mode [MODE]

[設定値及び初期値]

MODE

[設定値]:

設定値 説明

- 1 RIPの送信インターフェースが属するネットワークアドレスと広告する経路の宛先ネットワークアドレスが一致し、サブネットマスクが異なる場合は、その経路を広告しない。
- 2 RIPの送信インターフェースが属するネットワークアドレスと広告する経路の宛先ネットワークアドレスが一致し、サブネットマスクが異なる場合は、その経路を広告する。

[初期値]: 1

[説明]

RIPv2でRIP送信インターフェースが属するネットワークアドレスと広告する経路の宛先ネットワークアドレスが一致し、サブネットマスクが異なる場合、当該経路の広告動作をMODEの設定値によって変更する。

本コマンドに対応していないリビジョンでは、MODEの設定値が1のときの動作をする。

RIPv1の動作には影響はない。

[ノート]

NVR510 Rev.15.01.16以降で使用可能。

[6] DHCPリレーエージェント機能で使用する始点ポート番号を設定するコマンドを追加した。

ODHCPリレーエージェント機能で使用する始点ポート番号の設定

[書式]

dhcp relay srcport PORT

no dhcp relay srcport [PORT]

[設定値及び初期値]

PORT

[設定値] : ポート番号(1-65535)

[初期値] : 68

[説明]

DHCPリレーエージェント機能で使用する始点ポート番号を設定する。

[ノート]

NVR510 Rev.15.01.16以降で使用可能。

■仕様変更

[1] console columnsコマンドで設定できる上限値を4096に変更した。

○コンソールの表示文字数の設定

[書式]

console columns COL

no console columns [COL]

[設定値及び初期値]

COL : コンソールの表示文字数

[設定値] :

80..4096 (NVR510 Rev.15.01.16 以降★)

80..200 (上記以外★)

[初期値] : 80

[説明]

コンソールの1行あたりの表示文字数を設定する。

本コマンドは一般ユーザーでも実行できる。

[ノート]

本コマンドの設定は、saveコマンドで保存するまでshow configコマンドによる設定の表示に反映されない。

Rev.9系以降では、saveコマンドで保存しなくてもshow configコマンドで設定が表示される。

[2] RAプロキシで、ルーター起動時にプロキシ配下のLANインターフェースがリンクダウン状態のとき、RA受信により生成したIPv6アドレスを暫定IPv6アドレスとしていたのを有効なIPv6アドレスとするように変更した。

[3] RAプロキシで、以前と異なるIPv6プレフィックスのRAを受信したときに、RA配下のWindows PCが新しいIPv6プレフィックスを利用できるようにした。

[4] RAプロキシで設定されたMAP-Eトンネルにおいて、LANインターフェースがリンクダウンしたときに、MAP-Eで計算されたIPv6アドレスを消さないように変更した。

[5] IPv6 IPoE設定のルーターを多段に配置したときに、下位ルーターのDNSリカーシブサーバーから上位ルーターのDNSリカーシブサーバーへアクセスできるようにした。

[6] dns notice orderコマンドでDHCPv6を設定できるようにした。

dns notice orderコマンドの設定をすることで、IPv6網からDHCPv6で通知されたDNSサーバーアドレスをルーター配下の端末に通知できるようになる。

○DHCP/DHCPv6/IPCP MS拡張でDNSサーバーを通知する順序の設定 ★

[書式]

```
dns notice order PROTOCOL SERVER [SERVER]
```

```
no dns notice order PROTOCOL [SERVER [SERVER]]
```

[設定値及び初期値]

- PROTOCOL

[設定値]:

dhcp .. DHCPによる通知

dhcpv6 .. DHCPv6による通知 ★

msextn .. IPCP MS拡張による通知

[初期値]: dhcp、dhcpv6およびmsextn ★

• SERVER

[設定値]:

none .. 一切通知しない

me .. 本機自身

server .. dns serverコマンドに設定したサーバー群

PROTOCOLにdhcpv6を指定した場合はDHCPv6で割り当てられた
サーバー群 ★

[初期値]:

me server (PROTOCOLがdhcpまたはmsextnの場合)

me (PROTOCOLがdhcpv6の場合) ★

[説明]

DHCPやDHCPv6、IPCP MS拡張ではDNSサーバーを複数通知できるが、それを
どのような順番で通知するかを設定する。★

noneを設定すれば、他の設定に関わらずDNSサーバーの通知を行わなくなる。

meは本機自身のDNSリカーシブサーバー機能を使うことを通知する。PROTOCOL
にdhcp、またはmsextnを指定した場合、serverではdns serverコマンドに設定した
サーバー群を通知することになる。PROTOCOLにdhcpv6を指定した場合は、IPv6網
からDHCPv6で通知されたDNSサーバー群を通知することになる。★

IPCP MS拡張では通知できるサーバーの数が最大2に制限されているので、後ろに
meが続く場合は先頭の1つだけと本機自身を、server単独で設定されている場合
には先頭の2つだけを通知する。

[7] IPマスカレード機能で、既存のUDPのNATエントリーと「送信元IPアドレス」

「送信元ポート番号」「宛先ポート番号」が同一であり「宛先IPアドレス」のみが異なるUDPパケットは従来は新しくNATエントリーは作成しない仕様であったが、対応する新しいNATエントリーを作成し別々に管理するようにした。

[8] ネットボランチDNSのIPv6のホストアドレスおよび電話アドレスが未設定の状態で、グローバルIPv6アドレスが割り当てられたとき、DEBUGレベルの以下のログを出力しないよう変更した。

[DDNS] Indication IPv6 address is assigned

[DDNS] Received Indication IPv6 address.

[9] dhcp scope optionコマンドで、オプション番号252に文字列を設定できるようにした。この変更に伴い、オプション番号252で設定されたconfigは文字列で出力するようにした。

[10] YNOのGUI Forwarder経由でWeb GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]にアクセスしたとき、プロバイダー接続の設定を新規に作成できるようにした。

[11] Web GUIの詳細設定の[DNSサーバー]-[中継先DNSサーバーの設定]で、サーバーの選択条件を設定できるようにした。

[12] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]および詳細設定の[プロバイダー接続]で接続種別にIPv6 IPoE接続を選択したとき、以下のIPv4 over IPv6トンネルを設定できるようにした。

- 「v6プラス」

- OCN/バーチャルコネクトサービス

[13] Web GUIの詳細設定の[セキュリティー]-[IPフィルター]で、IPv6フィルターを設定できるようにした。

■バグ修正

[1] 以下の機能を使用すると、リブートやハングアップする可能性を排除した。

ただし、この問題が実機上で発現することは確認できていない。

- YNOエージェント機能

- 「v6プラス」

- OCNバーチャルコネクトサービス

Rev.15.01.15以降で発生する可能性がある。

[2] L2TP接続で、切断処理中にリブートやハングアップする可能性を排除した。

ただし、この問題が実機上で発現することは確認できていない。

[3] 不正なファイルやディレクトリーが保存された外部メモリーを使用するとリブートすることがあるバグを修正した。

[4] 管理者パスワードを使用してSSHでログインしようとするときリブートするバグを修正した。

Rev.15.01.15以降で発生する。

[5] 極めて稀なタイミングで、ハングアップやリブートが発生する可能性を排除した。

ただし、この問題が実機上で発現することは確認できていない。

[6] ip routeコマンドの設定に、一つだけフィルター型経路のゲートウェイを設定して、その設定を削除したときに、メモリーリークが発生するバグを修正した。

[7] YNOマネージャーに保存したコンフィグをルーターに取り込む場合、本来は差分のみ

設定されるはずが、一部のコマンドではすでに設定されているにも関わらず、再設定されてしまうバグを修正した。

[8] YNOエージェント機能で以下のコマンドが実行できないバグを修正した。

- ipv6 interface icmp-nd queue length
- ipv6 ospf import from
- snmp trap cpu threshold
- snmp trap delay-timer
- snmp trap memory threshold
- system cpu threshold
- system memory threshold

[9] L2TP/IPsec接続で、送信元IPアドレスが同じ接続要求を同時に3つ以上受信した場合、接続を受けたトンネルで新規接続を受けることができなくなる可能性があるバグを修正した。

[10] clear status ppコマンドで、L2TP/IPsecトンネルをバインドしているPPインターフェースのMIBカウンターをリセットできないバグを修正した。

[11] L2TP/IPsec接続で、PPインターフェースにバインドしたトンネルインターフェースをdisableにしたとき、L2TP/IPsecで通信ができてしまうバグを修正した。

[12] PPTP接続で、トンネルがアップしたあとにPPインターフェースにバインドしたトンネルインターフェースをdisableにしたとき、PPTPで通信ができてしまうバグを修正した。

[13] マルチプレフィックス状態で、1つのプレフィックスの寿命が尽きたとき、IPIPトンネルがダウンしてしまうバグを修正した。

- [14] ネットボランチDNSで、IPv6のホストアドレスまたは電話アドレスが設定されているとき、使用中のグローバルIPv6アドレスが割り当てられると、ネットボランチDNSの自動更新が行われてしまうバグを修正した。
- [15] RIPv1において、RIP広告の受信設定がテキスト型認証方式と認証キーの設定をしているとき、受け取ったRIP広告を破棄するバグを修正した。
- [16] RIPv2において、RIP広告の受信設定が以下のとき、認証方式の種類に関わらず認証方式と認証キーの設定をしている送信側からのRIP広告を不正に受け取ってしまうバグを修正した。
- テキスト型認証方式の設定をしていないとき
 - テキスト型認証方式の設定をして、認証キーの設定をしていないとき
- [17] ネットボランチDNSのIPv6のホストアドレスが設定されている状態で、DHCPv6によりグローバルIPv6アドレスが割り当てられたとき、ネットボランチDNSが自動更新されないバグを修正した。
- [18] DHCPサーバー機能で、DHCP REQUESTメッセージのOptionにEndが入っていないとき、不正な値をOptionの値として取得してしまうことがあるバグを修正した。
- [19] IPv6接続で、ネットボランチDNSのホスト名を自動生成したとき、ネットボランチDNSの更新ができないバグを修正した。
- Rev.15.01.15以降で発生する
- [20] IPv6フラグメントパケットの再構築後のペイロード長が65,535オクテットを超えるとき、ICMPv6 Parameter Problem/パケットを送信しないバグを修正した。

[21] IPv6拡張ヘッダーのHop-by-Hopオプションの宛先オプションに不明なタイプがセットされているICMPv6 Echo Request/パケットを受信したとき、発信元へICMPv6 Echo Reply/パケットが送信されないバグを修正した。

[22] ひかり電話においてキャッチホンの契約がある場合、発信した通話中に空きチャンネルがないと、キャッチホンを受けることができないバグを修正した。

[23] dns server selectコマンドで、typeを省略すると設定できないことがあるバグを修正した。

[24] dns notice orderコマンドで、以下のバグを修正した。

- 重複したキーワードを設定してもエラーにならない
- サーバーパラメーターの2つ目のキーワードにnoneを設定してもエラーにならない

[25] show status user historyコマンドで、SFTPで接続したユーザーのログイン履歴が表示されないバグを修正した。

[26] VLANが無効なときにclear status LAN/WAN1コマンドでPPインターフェースのMIBカウンターがリセットされてしまうバグを修正した。

[27] ネットボランチDNSで、ホスト名を自動生成したときshow status netvolante-dnsコマンドでIPアドレスが表示されないバグを修正した。

Rev.15.01.15以降で発生する

[28] IPv6フィルターまたはIPv6動的フィルターで、そのフィルターに該当するプロトコルで3つ以上にフラグメントされたパケットを受信したときに発生する以下のバグを修正した。

- ・フラグメントされたすべてのパケットを破棄してしまうことがある

- ipv6 filterコマンド

- pass_reject : pass、 pass-log、 pass-nolog、 restrict、 restrict-log、
restrict-nolog

- ipv6 filter dynamicコマンド

- ・最後のパケットに対するrejectログが出力されないことがある

- ipv6 filterコマンド

- pass_reject : reject-log

[29] 以下の操作でコンフィグを比較したとき、特定のコマンドが一致しているにも

かかわらず差分として抽出されることがあるバグを修正した。

- show config differenceコマンドを実行

- loadコマンドでdifferenceオプションを指定し実行

[30] Web GUIのダッシュボードのHistoryで、暗号化された統計ファイルの復号に失敗

したときにメモリーリークが発生するバグを修正した。

[31] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]で、プロバイダー接続の設定を追加する

と、コンソール上に不正なログが表示されることがあるバグを修正した。

[32] Web GUIの詳細設定の[DHCPサーバー]-[動作モードの設定]で、DHCPリレー

エージェント機能の中継サーバーのIPアドレスが入力できないバグを修正した。

Rev.15.01.15以降で発生する。

[33] Web GUIの詳細設定の[DNSサーバー]-[中継先DNSサーバーの設定]で、誤ったインター

フェースが選択可能になっているバグを修正した。

- [34] Web GUIのLANマップのツリービューでPoEスイッチを選択したとき、PoE状態の取得完了までに時間がかかることがあるバグを修正した。
- [35] Web GUIのLANマップで、SWX2210の機器名を変更するとき、アンダースコア(_)とハイフン(-)以外の半角記号が設定できないバグを修正した。
- [36] Web GUIのダッシュボードのHistoryにおける以下のガジェットで、グラフ上の表記とは異なる単位に換算された値で表示されるバグを修正した。
- トラフィック情報(LAN)
 - トラフィック情報(PP)
 - トラフィック情報(TUNNEL)
- [37] Web GUIのダッシュボードのHistoryにおける各ガジェットで、グラフの実線と破線が逆に表示されるバグを修正した。
- [38] Web GUIの管理の以下のページで、外部メモリーでインポートおよびエクスポートに失敗したときに不適切なエラーメッセージが表示されるバグを修正した。
- [保守]-[CONFIGファイルの管理]-[CONFIGファイルのインポート]
 - [保守]-[CONFIGファイルの管理]-[CONFIGファイルのエクスポート]
 - [保守]-[ファームウェアの更新]-[外部メモリーからファームウェアを更新]
- [39] Web GUIの詳細設定の[セキュリティー]-[IPフィルター]のTOPページで[?]ボタンをクリックしたとき、「2.トップページ」がフォーカスされた状態でヘルプページが開くバグを修正した。
- [40] Web GUIの管理の[本体の設定]-[ブザーの設定]で、「ブザー通知」が「無効」の状態を設定入力ページを開いたとき、「通知の条件」の各項目がグレイアウトしないバグを修正した。

Rev.15.01.09以降で発生する

[41] Web GUIの管理の[保守]-[ファームウェアの更新]-[ネットワーク経由でファームウェアを更新]で、ファームウェアの更新に失敗したときにエラーメッセージが正しく表示されないバグを修正した。

[42] Web GUIのLANマップのタグVLANの画面で、VLAN間フィルター設定ダイアログのVLAN間通信がVLAN間フィルター設定状態に関わらず常に全遮断になっているバグを修正した。

[43] Web GUIの以下のヘルプページで、誤記を修正した。

- LANマップの[詳細]-[マルチプルVLAN]-[マルチプルVLANの設定ビュー]
- LANマップの[タグVLAN]
- かんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]
- かんたん設定の[VPN]-[リモートアクセス]
- 詳細設定の[ルーティング]-[静的ルーティングの設定]
- 詳細設定の[DHCPサーバー]-[動作モードの設定]
- 管理の[外部デバイス連携]-[USB/microSD]
- [全般]-[その他]-[切断コード表]

[44] コマンドのヘルプの誤記を修正した。

[45] IPマスカレード機能で、同一の外側ポート番号が割り当てられたTCPセッションのエントリーが複数生成/削除されると、以下の現象が発生することがあるバグを修正した。ただし、nat descriptor backward-compatibilityコマンドが1に設定されているときは本バグは発現しない。

- メモリーリーク
- UPnPのポートマッピングやFTPのPASV/PORTコマンドに応じたパケット転送で、転送対象のポート宛ての通信が正しく転送されない

Rev.15.01.16で発生する。

[46] YNOエージェント機能のGUI Forwarder経由で、Web GUIの[詳細設定]-[DNSサーバー]

-[中継先DNSサーバーの設定]から設定を変更したとき、既存のDNSサーバーの設定が消えるバグを修正した。

このバグにより、YNOからアクセスできなくなり、また、インターネットに接続できなくなることがあった。

[47] YNOのGUI Forwarder経由で、Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]から

IPv6 IPoE接続の設定を新規作成するとき、「IPv4 over IPv6トンネルの設定」を「使用する」にすると、正常に設定できないバグを修正した。

[48] YNOエージェント機能のGUI Forwarder経由で、Web GUIの以下のページで設定を

行ったとき、警告メッセージが表示されないバグを修正した。

- [かんたん設定]-[アプリケーション制御]
- [詳細設定]-[プロバイダー接続]-[設定一覧]-[基本設定]
- [詳細設定]-[プロバイダー接続]-[設定一覧]-[DNSサーバーの設定]
- [詳細設定]-[プロバイダー接続]-[設定一覧]-[静的ルーティングの設定]
- [詳細設定]-[ルーティング]-[制定ルーティング一覧]
- [詳細設定]-[DNSサーバー]-[DNSサーバー機能の基本設定]

[49] Web GUIの以下のページで、設定入力後、入力内容の確認ページを表示したとき、

スクロールバーが一番上まで戻らないバグを修正した。

- [詳細設定]-[プロバイダー接続]
- [詳細設定]-[DNSサーバー]
- [詳細設定]-[LAN]-[IPアドレス]
- [詳細設定]-[LAN]-[ポート]
- [詳細設定]-[NAT]

- [詳細設定]-[ルーティング]
- [かんたん設定]-[プロバイダー接続]
- [かんたん設定]-[基本設定]-[LANアドレス]
- [かんたん設定]-[VPN]-[拠点間接続]
- [かんたん設定]-[VPN]-[リモートアクセス]
- [かんたん設定]-[YNOエージェント]

■更新履歴

Jul. 2020, Rev.15.01.18 リリース

以上